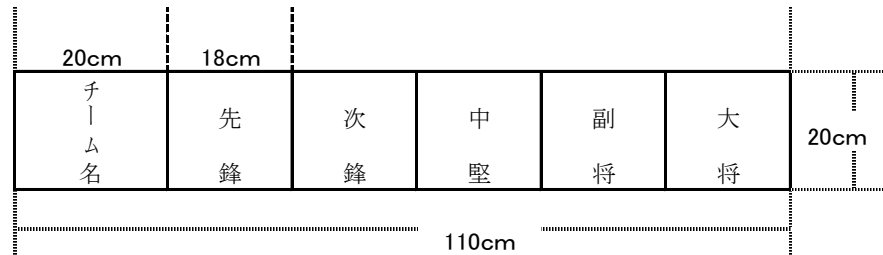


第 75 回 北海道少年剣道錬成大会 兼 第 68 回「赤胴」少年剣道錬成大会 開催要項

1. 主 催 一般財団法人北海道剣道連盟、北海道新聞社
2. 後 援 北海道、公益財団法人北海道スポーツ協会、一般財団法人北海道体育文化協会、
一般財団法人札幌市スポーツ協会
3. 協 賛 ホクレン農業協同組合連合会
4. 日 時 令和8年8月2日(日) 午前 9時00分 開会
5. 会 場 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ 午前 7時45分 開場予定
札幌市南区真駒内公園1-1 電話 011-581-1972
6. 参 加 資 格 (1) 各剣道連盟に所属する小学生とする。出場できる団体チーム数、「赤胴」個人出場数は、「別表1」の剣道連盟別出場数割当表による。
(2) 団体試合のチームは監督1名、選手5名、補員1名により編成する。ただし、3~4名での参加(3名の場合は先鋒、中堅、大将、4名の場合は先鋒、中堅、副将、大将に配置)を認める。
また、監督は20歳以上(年齢基準は大会前日)とする。
(3) 「赤胴」個人試合の出場者は必ず「赤胴」を着装する。
(4) 単一剣連でチーム編成ができない場合は近隣剣連との混成チームを認める。また、近隣剣連との混成でもチーム編成ができない場合は、連絡協議会で調整し連絡協議会管内での混成を認める。
(5) スポーツ安全保険に加入している者。
7. 試 合 方 法 (1) 団体試合
ア. トーナメント戦方式により行う。
イ. 1, 2回戦は「別記1」による基本団体試合を行う。なお、基本団体の「元立ち」は、各チームの監督または高校生以上の指導者が行う。
ウ. 3回戦からは、次により3本勝負の試合を行う。
(ア) 試合時間は3分とし、勝敗の決しない場合は引分けとする。
(イ) 勝者数、総本数が同数の場合は代表者戦を行う。代表者戦は3分1本勝負とし、延長は2分区切りとし勝敗の決するまで行う。
(2) 「赤胴」個人試合
ア. トーナメント戦方式により行う。
イ. 試合は3分3本勝負とする。延長は2分区切りとし取り勝敗の決するまで行う。
8. 試 合 ・ 審 判 全日本剣道連盟剣道試合・審判規則及び細則を準用して行う。
9. 表 彰 団体試合、「赤胴」個人試合とも、ベスト8以上を表彰する。
10. 参 加 料 (1) 団体試合 1 チーム 5,000 円
(2) 「赤胴」個人試合 1 人 1,000 円
11. 申 込 締 切 日 令和8年7月7日(火)
12. 申 込 方 法 (1) 所属剣道連盟会長が参加者をとりまとめ、別添申込書により申し込むと共に参加料を納入すること。
期限後の申し込み、参加料の納入のないものは受付けない。また、申込み後の取り消し及び欠場した場合等も参加料は返金しない。
(2) 申込先「一般財団法人 北海道剣道連盟事務局」宛
13. 審 判 員 委 嘱 について (1) 大会参加の監督・元立ち(原則五段以上)の者を審判員に委嘱する予定である。
また、監督等以外で審判が可能なのは、別添の「審判承諾書」を参加申込書と同時に提出すること。
ただし、審判員必要数の関係上、審判員に委嘱しない場合があるので、了承のこと。
なお、「審判員承諾者」及び監督の審判員には、交通費は支給しない。
(2) 審判員の服装は、「全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則」による。
14. 個人情報保護法への対応
参加者の個人情報は、本事業の運営に必要な範囲において利用する。
なお、事業の目的に応じ、ホームページ及び「剣友北海道」等の媒体に掲載することがある。
また、普及発展のため、報道機関へ必要な情報を提供することがある。
15. そ の 他 (1) 申込書提出後の選手の変更は原則認めない。但し負傷及び感染症等による場合は、大会当日の審判会議の前までに大会本部事務局へ申出て、大会委員長の承認を得るものとする。

- (2) 補員との交代によるオーダー変更は一度限りとし、試合開始の前までに試合場審判主任へ申出て承認を得るものとする。
- (3) 選手は、所属する剣道連盟名又は道場名及び姓を明記した名札(垂れ)を着装するものとする。
- (4) 目印(タスキ)及び昼食は、各自又は各チームにおいて用意するものとする。
- (5) 前年度団体優勝チーム及び赤胴個人優勝者は、優勝旗、優勝杯(持回り)を開会式で必ず返還する。
- (6) 監督の服装は、剣道着・袴以外はワイシャツ着用とする。
- (7) 団体戦のオーダー表(下記)を各チームで作成し受付に提出すること。

団体戦オーダー表(寸法)



- (8) 試合会場の利用上の注意
 - ア. 観覧席並びに試合会場での場所取りを禁止します。
 - イ. 試合会場への入場は、監督並びに選手に限定します。
 - ウ. 試合会場への入場は、係員の指示に従ってください。
 - エ. ゴミ等はお持ち帰りください。

「赤胴賞」の贈呈について

北海道剣道連盟は、少年剣道の発展に功績があったと認められる連盟または団体に対し、選考委員会に諮り「赤胴賞」を贈呈しています。本年度の受賞を希望する連盟、団体は、別記書式「赤胴」交付申請書(申請団体の功績報告書)を令和8年7月7日(火)までに提出してください。

別記書式

「赤胴」交付申請書 (申請団体の功績報告書)

令和 年 月 日

一般財団法人北海道剣道連盟会長 様

剣道連盟会長 印

下記のとおり報告書を添えて、「赤胴」の交付を申請します。

所 属 剣 連	
申 請 団 体 名	
少 年 部 員 数	
主 な 指 導 員	
北海道少年剣道錬成大会出場年度及び成績	
その他特筆すべき功績	

- 1 大会出場年度、成績等及び功績について、具体的かつ正確に記載すること。必要に応じ別紙としても良い。
- 2 申請締切日 令和8年7月7日(火)

北海道少年剣道錬成大会 基本団体試合要領

1. 基本団体試合の内容

(1) 基本判定試合(切り返し、打込み稽古)

各チームの監督または、指導者(高校生以上)の元立ちで、次の稽古を続けて行う。なお、**時間は30秒**とする。

ア. 切り返し

「正面打ち」の後、「前進して左右面4本一後退して左右面5本一正面打ち」を2回繰り返す。最後の正面打ちは通り抜ける。ただし、左右面は元立ちが竹刀で受ける。

イ. 打込み稽古

切り返しに引き続き打込み稽古に入る。(元に戻らない)

「打込み稽古」とは、元立ちが与える打突の機会をとりえて打込み、打突の基本的な技術を体得する稽古の方法である。充実した気力で遠間から大技で正しく、間合、姿勢等に留意し基本技、連続技、体当たり、引き技等をくり返し打突する。

(2) 1本勝負試合

基本判定試合の後、1本勝負試合を行う。なお、時間は1分とし、勝敗の決しない場合は、引き分けとする。

2. 試合及び審判要領

(1) 審判員は主審1名、副審2名をもって構成する。

(2) 試合開始及び終了の際の相互の礼は、選手全員が面、小手を付け竹刀を持って行う。

(3) 試合の開始については、選手及び元立ちは9歩の間合にて立礼し、開始位置において蹲踞の姿勢から、主審の「始め」の宣告により**30秒間**で切り返し及び打込み稽古を行う。

(4) 主審の「止め」の宣告により打込み稽古を終了し、判定を待つ。

(5) 試合の勝敗は、切り返し、打込み稽古の総合判定とする。

(6) 審判員は、主審の「判定」の宣告で審判旗によって勝敗を表示する。主審は表示を確認し、勝者側の旗を上げ「勝負あり」と宣告する。なお、勝者の勝ち本数は1本と評価する。(判定に引分けは認めない)

(7) 勝敗宣告 勝者数、勝本数が同数の場合は代表者戦を行う。この場合は前記イの代表者戦を開始する。

3. 竹刀の長さ

(1) 選手の竹刀の長さは、108cm(いわゆる3尺6寸)以下とする。

(2) 元立ちの竹刀の長さも、選手と同様の長さがのぞましい。

4. チームの勝敗決定

(1) チームの勝敗決定にはポイント制を導入する。基本判定試合は5勝に3P、4勝に2P、3勝に1Pを与え、1本勝負は勝者に1Pとし、ポイント同数の場合は、基本判定試合の勝者を勝ちとする。

5. 基本判定試合判定基準

(1) 正しい礼法、着装が出来ているか。

(2) 充実した氣勢で大きく、正しく、速く、気剣体一致で打っているか。(ただし、速くとも小さく、不正確な打ちは不可)

(3) 切り返し

ア. 竹刀の振り方は正しいか。

イ. 足の運びは正しいか。(退き足が、歩み足にならないか)

ウ. 左右面を打つ角度が約45度になっているか。

エ. 「正面打ち」のとき、一足一刀の間合から打っているか。

オ. 竹刀の打突部で打突部位を正しく打っているか。

カ. 「左右面打ち」のとき、左こぶしが正中線を通り、相手の見える所まで上がっているか。

キ. 「正面打ち」のとき、両腕が自然に伸び、左こぶしが中心(みぞおち)に納まっているか。

ク. 最後まで、気合と体勢が崩れないか。

(4) 打ち込み稽古

ア. 足さばきが正しいか。

イ. 技に適した足さばきが出来ているか。

ウ. 間合取りが適切か

エ. 技が正確(気剣体一致)であるか。

オ. 最後まで、気合と体勢が崩れないか。

カ. 残心がなされているか。